

独創とは何か？

0. 概要；

- ・「独創」とは「人にできるがコンピュータにはできないことの典型」と捉えられているが、果たして本当か。「考えるコンピュータ」はできないのか。「独創」という思考のプロセスをじっくりと考えることから、人とコンピュータの違いにも議論が発展・白熱した。

1. 口火；

- ・数週間前に米国製スーパーコンピュータがクイズ番組で人間と対戦、勝利した。その番組で出題されたクイズは、知識だけを問う単純なものではなく、質問内容を文脈から類推し、考えないと判断できないもので、「コンピュータが考える」ということを示唆している。口火として、「独創的だと思った物や考え」について、各人の考えを訊いた：
 - Aさん；「オリジナル漫才という言葉から連想される唯一性」。Bさん；「iPod/Walkman」。
 - Cさん；「(工業生産された“便器”というモノに芸術という視点を加えた)デュシャンの泉」。
 - Dさん；「文字」。

2. 議論；

- ・上記具体例を踏まえ、(1) 独創を考える際の思考プロセスと(2) 人にできてコンピュータにはできないことの2つの視点から、さらに考えてみた：

(1) 思考プロセス

独創的な考えとは、それ以前には既知であった2つの考えやモノ(会では手本と表現)を繋ぎ合わせることなのか。それ以外にはないのだろうか：

- ・参加者からは、上記(2つの考えやモノを繋ぐ)以外の考えが提起されなかった。
 - ・だが、本当に上記以外には「独創」が生まれ得ないかどうかは未決着となった。
- 上記を考える際に、煮詰まった参加者からは下記の意見も出された；
- ・独創という概念を考える際には、その社会的評価を一緒に考えるべきではないか。
 - ・個人の内面・思考にもっと迫る必要があるのではないか。

(2) 人にできてコンピュータにはできないこと

個人の頭の中で独創を考えている際のプロセスにより集中するため、切り口を変えて、コンピュータとの違いをさらに考えた：

- ・想像することはコンピュータにはできない。
 - ・感情を表す詩の創作はコンピュータにはできない。
 - ・コンピュータの世界は 0(ゼロ)または 1(イチ)だけだが、人はその中間を考えることができ、そこにこそ「創造」があるのではないか。
- 司会註：しかし、そもそもないこと(無)は考えられないのではないか。
- ・人には良い意味で曖昧さがある。人の記憶は時間の経過と共に曖昧になり、それを基にした思考自体も曖昧になる場合があるが、そこが鍵となっているのではないか。

3. まとめ

最終的な目的は、「人の心とは何か」を直接捉えることにある。しかし大変難しい。だからこそ、外側から追い込んでぼんやりと捕捉していくしかないと考えている。「独創」も「人にできてコンピュータにはできないこと」もこうした考えから生まれた。極めて漠然とした概念ではあったが、社会的視点を排除し、思い切り思考プロセスに絞ったことで一定の議論ができたのではないかと思う。「独創」の思考プロセスが既知の2つを繋ぎ合わせることでとすれば、「独創」の定義も自ずと明らかになってこよう。

以上